

筑波経済月報 No.158 2026.9

■ 企業探訪

「創造する電設」事業で人とまちの未来を照らす

雅電設株式会社

■ 支店長のわがまち紹介

全国から注目される意欲的な試みが市民の誇りに

常総市

■ 常陸時代の佐竹氏 –500年の軌跡を追う– (第28回)

先祖の地を訪れた秋田藩の家臣たち

■ 研究員レポート

ミラノ3大学の産学連携・起業支援モデル比較

■ 健康経営のすすめ

健康保険の料率は皆様の取組みで変わります

筑波総研 株式会社



アグリサイエンスバレー常総・道の駅常総

(写真提供／常総市)



アグリサイエンスバレー常総全景



道の駅常総の行列



道の駅常総とTSUTAYABOOKSTORE常総インターチェンジ



グランベリー大地

「アグリサイエンスバレー常総」は、常総市の新たな玄関口として「食と農と健康」をテーマに、農業6次産業化を軸としたまちづくりと地域活性化を目指すプロジェクトで、圏央道常総インターチェンジ周辺の約45haに、生産・加工・流通・販売が一体となった地域産業の核となる産業団地を形成しています。

生産を受け持つ農地エリア(1次産業)では、もともと稲作中心だった農業を、生産性の高い大規模な施設園芸などへ転換し、先進農業のモデルとなるようなAIやICTを活用したスマート農業を展開しています。

加工・流通・販売を受け持つ都市エリア(2次・3次産業)では、食品流通企業や大規模なマルチテナント物流施設が立地しており、新たな雇用や税収が生まれています。

この都市エリアの中でも、「道の駅常総」は2015年の水害からの復興のシンボル、そして新たな地域交流拠点として、2023年4月28日にオープンしました。外観は周辺の田園風景と調和した水平ラインを基調としたデザインとし、道の駅ではあまり例のない2階建てになっています。これは万が一の水害に備え、電気設備や防災倉庫などをすべて2階に配置することで、一時避難所として対応できるようにしたものです。

道の駅常総の管理運営は、静岡県熱海市に本社があり、常総市に子会社を設立したTTCグループが行っており、これまで道の駅や類似施設の運営実績が豊富で、地域特産物を使った商品開発やメディアを活用した情報発信等に優れています。連日、名物となったメロンパンや芋けんぴを買い求める長い行列ができており、2025年度は年間約295万人の来場者がありました。

また、道の駅の隣接には、「TSUTAYABOOKSTORE 常総インターチェンジ」と「常総 ONSEN&SAUNA お湯むすび」が立地し、農地エリアにある観光農園の「グランベリー大地」とあわせて、集客・交流ゾーンとして1日ゆったりと時間を過ごせる滞在型の集客施設になっています。

◆道の駅常総 茨城県常総市むすびまち1番地

アクセス方法: 車/圏央道常総ICから約3分

電車/関東鉄道常総線三妻駅から徒歩約20分

お問合せ: 電話0297-38-7570

